

## 第49期 石坂潤一、床井一夫

我々49期はFWのチームであり、それは前年からのレギュラーが5人残っていたため、モール、ラック、スクラム、ラインアウト等、FW戦では都立高校レベルでは負ける事はほとんどなかったが、逆にBKは前年のレギュラーが大半抜けたため、それまでの試合経験の少なさもたたり、チームとしては、1年間の練習や試合では未完成のまま終わってしまったというような気がします。

我々が高校在学時代の監督は、1年の秋までは34期の石瀬徹さんが指揮をとりましたが、3年生引退後の秋からは、高校の先生である竹田輝夫先生に交代した時期でもあります。

竹田先生はFWの出身ということもあり、我々は2年生ぐらいからFWが少しずつ力をつけ強くなりました。

練習では、FWは毎日スクラムを50本以上組み、モールゲームも週に2回位は入れてやっていました。

BKはタックルはもちろん、オープン練習や一対一などを中心に走るメニューを多く取り入れて練習をしていました。

また、週に一日はOFFの日を返上して、筋トレの日をもうけ、自主トレという形でベンチプレスやスクラムフォーム、懸垂を中心に体力作りにもはげみました。

他にも、朝練として公式戦の1カ月前にはランニングを中心にフィットネスを高めようという目的でトレーニングを行いました。

一週間の日程は以下の通りです。

月:OFF

火・水・木・土:通常練習

金:自主的筋力トレーニング

日:試合

日曜日には竹田先生の計らいで月に2~3度は練習試合や合同練習を行いました。

しかし、残念ながら公式戦では対戦相手にも恵まれないうということもありましたが一度も勝つことはできませんでした。

[新人戦(冬の大会)] 対桜美林高8-22●

[新人戦(春の大会)] 対青山高 0-56●

[花園予選(秋の大会)] 対専大附高0-47●

我々の最後の試合となった専大附高は目黒高に負けたもののベスト8まで進出。

しかし、我々はラグビー以外の面においても仲が良く、オフの日是一緒に遊んだり、夏合宿後の一週間のオフを利用して1泊2日で旅行に出かけたりして、まとまりがある代であったと思います。

最後に我々はまだ20代前半と若いですが、これから社会において千歳高校ラグビー部で養ったことを生かし、頑張るつもりです。

これからの我々49期ラグビー部一同の活躍に先輩方どうぞご期待して下さい。

○我々、49期ラグビー部は全員で14名(マネージャー2名含む)で3年間活動しました。

主将:石坂潤一

副将:床井一夫

FWリーダー:相羽政行

BKリーダー:斎藤慶太

マネージャー:藤野幸江、久米香

3年の時のポジションは以下の通りです。

プロップ:佐藤仁、飯田浩一

フッカー(フランカー):小山武志

ロック:相羽政行、安田仁

フランカー:床井一夫

No.8:石坂潤一

スクラムハーフ:青木一太

センター:田部井義康

ウイング:平野佳仁

フルバック:斎藤慶太

フルバック(センター):佐藤亮輔